

《幼児教育》

絵に表現することを楽しむ園児を目指して ～自分なりのイメージで表現する過程に応じた環境構成と援助の工夫を通して～

那覇市立城西こども園 保育教諭 比嘉 愛

〈研究の概要〉

園児は生活の中で、環境とのかかわりを通して多様な感情体験をし、そこで感じたことや考えたことなどを、自分なりに表現していく。そして、自分なりのイメージで表現したことを、保育教諭や友達に受けとめられることを通して、表現することの喜びや楽しさを味わっていく。園児が、自分なりのイメージで表現することを楽しむために、様々な素材や表現の方法に触れられる環境を構成し、その中で、イメージを引き出し、表現する意欲が高まるような言葉かけの工夫を行った。

本研究では、自分なりのイメージで絵に表現する楽しさが味わえるよう、絵に表現することを身近に感じる環境構成と保育教諭の援助の工夫について研究した。自分なりのイメージで表現する過程において、園児一人一人の実態を丁寧に捉え、援助を行うことで、表現する喜びや楽しさをより感じられるようになっていった。

実践を通して、園児が自分なりのイメージを形にしていくための援助と、イメージを共有する場の工夫をすることにより、自分や友達の表現の良さに気づいたり、認められたりすることで、表現する意欲に繋がり、楽しさを感じていったと考える。

〈研究のイメージ〉



目次

I	研究テーマ設定の理由	31
II	研究目標	31
III	研究構想図	32
IV	研究内容と方法	32
1	表現について	
(1)	自分なりのイメージで表現するとは	
(2)	自分なりのイメージで表現する過程	
2	絵に表現する楽しさを感じる環境構成と援助の工夫	
(1)	絵の発達段階について	
(2)	絵に表現する楽しさを味わえる環境構成	
(3)	絵に表現する楽しさを味わえる援助	
V	保育実践	35
1	保育計画	
(1)	実態把握	
(2)	保育計画	
2	実践事例	
(1)	室内環境の再構成による園児の変容	
(2)	生活発表会の取り組みを通して行う環境構成と援助の工夫	
事例 1	絵に表現する楽しさを味わう環境構成と援助の工夫～A児の姿を通して～ 【A児の変容と考察】	
事例 2	友達と一緒に表現する楽しさを味わう環境構成と援助の工夫 ～友達とイメージを共有する場を通して～ 【変容と考察】	
事例 3	表現する意欲に繋がる環境構成と援助の工夫～E児の変容を通して～ 【E児の変容と考察】	
3	実践を通しての園児の変容	
VI	成果と課題	40
1	成果	
2	課題	

《幼児教育》

絵に表現することを楽しむ園児を目指して ～自分なりのイメージで表現する過程に応じた環境構成と援助の工夫を通して～

那覇市立城西こども園 保育教諭 比嘉 愛

I 研究テーマ設定の理由

幼児を取り巻く環境は急速に変化し、子ども同士が遊ぶ機会の減少、高度情報化やAIの発展により、テレビゲームやインターネット等の室内遊びが増えるなど、直接的・具体的な体験をする場が減少してきている。園児が様々な環境と関わり、心動かされる体験を通して、豊かな感性を育む場として、こども園が果たす役割は重要だと捉える。

幼保連携型認定こども園教育・保育要領（以下、教育・保育要領）の領域「表現」のねらい（2）には、「感じたことや考えたことを自分なりに表現して楽しむ。」とされており、体験を通して生まれたイメージを楽しみながら表現する力を養い、創造性を育むことが示されている。また、教育・保育要領解説には、「保育教諭が園児の活動にとって適切な環境を構成し、園児との信頼関係を築き、園児同士のコミュニケーションを図るなど、適切な援助をしていくことが最も大切である。」とあり、園児がのびのびと活動する楽しさを味わえるよう、幼児の発達に応じた環境構成の工夫や保育教諭の適切な援助が求められている。

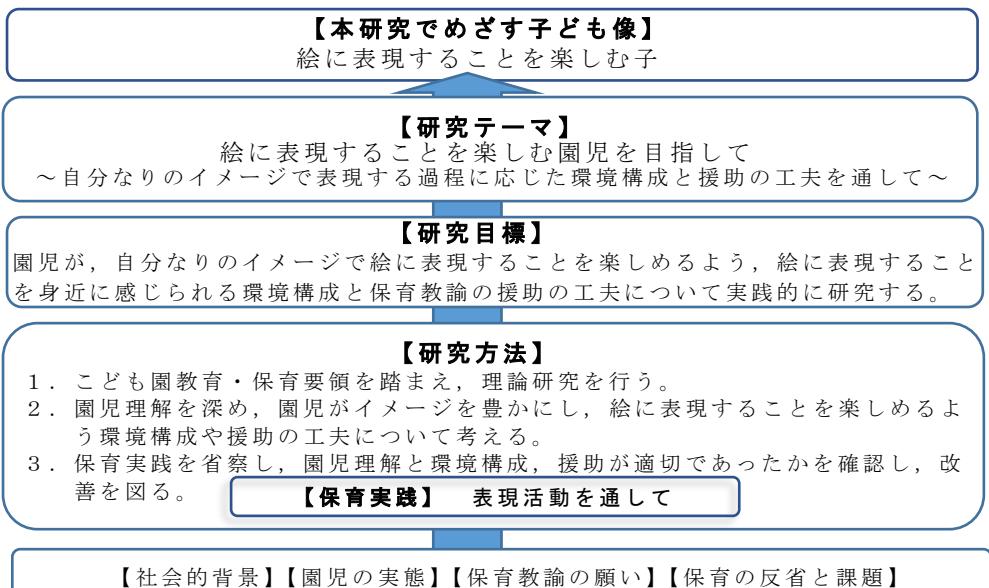
今年度担任している5歳児クラスは、好奇心旺盛で、活発な子が多く、興味を持ったものや人に積極的に関わる姿が見られる。園児一人一人が様々な体験ができるように工夫してきたが、室内遊びの様子を見ていると、ブロック等の遊具で遊ぶ子やダンスを楽しむ子、製作遊びをする子が多い中、絵を描くことを楽しんだり、描いたものを遊びの中に取り入れたりする子が少ないという実態があった。園児への聞き取り調査を行った結果、絵を描くことが好きと答えている子が20名中13名とクラスの半数を超えていたことが分かった。そこで、絵を描く機会をもっと充実させることで、園児がより自分なりのイメージで絵に表現することを楽しむことができるのではないかと考えた。これまでの自身の保育を振り返ってみると、絵を描くことがイベント化してしまい、描くことが園児にとって身近な表現方法になっていなかつたことや表現しようとする園児の思いに共感し、表現しようとする姿に寄り添えていなかつたと感じた。また、表現したい思いを保育教諭や友達と共有したり、認め合う場が足りず、楽しさを感じにくかつたのではないかと考える。

そこで、幼児の自分なりのイメージで表現する過程に応じて、イメージを引き出し、園児が表現すること楽しみ、絵に表現することを身近に感じられる環境構成と保育教諭の援助を工夫することで、絵に表現することを楽しむようになると想え、本研究テーマを設定した。

II 研究目標

園児が、自分なりのイメージで絵に表現することを楽しめるよう、絵に表現することを身近に感じられる環境構成と保育教諭の援助の工夫について実践的に研究する。

III 研究構想図



IV 研究内容と方法

1 表現について

(1) 自分なりのイメージで表現するとは

おかもと(2018)は「人は生まれ育ち、さまざまな経験を通して獲得したイメージがある。」と述べている。園児のイメージは、園児自身が体験し、経験したことの再現であると考えられ、イメージする力は生活の中での体験を通して働く感覚や感情に支えられている。表現は、イメージに基づいたものであり、表現していく上で、イメージを豊かにしていくことは欠かすことはできないといえる。

郡司(2018)は、「元来、子どもは、『知りたい、わかりたい、できるようになりたい、そのために行動したい！』という根源的な能動性に基づく存在である。そして、それらの出来事を身近な人に伝え、分かち合いたいという思いが『表現』の源となる。」と述べている。園児は、周囲のものや人との出会いを通して、自分の身体を使い、再現しようしたり、模倣したりしながら、様々な表現を楽しみ、イメージを形にしようとする。

本研究では、イメージを引き出すきっかけを作ることで、イメージをより形にしやすいようにし、生活の中で、自分なりのイメージで絵に表現することに繋げていきたい。また、園児が興味・関心を持てるものと結びつけたり、様々な素材や表現に触れたりすることで、イメージを広げたり膨らませたりしていき、表現する楽しさを感じられるようにしていきたい。

(2) 自分なりのイメージで表現する過程

教育・保育要領解説の中に、幼児期の豊かな感性と表現は「こども園における生活の様々な場面で美しいものや心動かす出来事に触れイメージを豊かにし、表現に関わる経験を積み重ねたり、楽しさを味わったりしながら、育まれていく。」と示されている。園児は生活の中で、環境とのかかわりを通して多様な感情体験をし、そこで感じたことや考えたことなどを、ありのままに表現する。そして、表現したことを、保育

教諭や友達に受けとめられることを通して、表現することの喜びや楽しさを味わうことができると考える。その体験がもっと表現したいという意欲につながっていき、身近にある様々な素材の特性や表現方法に気づき、取り入れていく。また、友達と一緒に表現する過程を楽しんだり、考えを出し合い工夫し、表現することを楽しんだりすることで、表現する意欲がさらに高まるようになると考える。以上のことを踏まえて、「自分なりのイメージで表現する過程」を図1にまとめた。

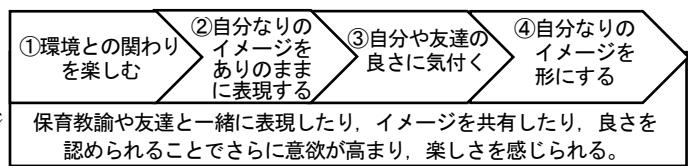


図1 自分なりのイメージで表現する過程

2 絵に表現する楽しさを感じる環境構成と援助の工夫

(1) 絵の発達段階について

子どもの絵には、発達段階というものがあり、発達に伴う絵の変化を年齢と段階によって分かりやすく示した(表1)。子どもの絵は、発達に伴い表現が変わり、多少の早さ遅さの違いはあっても、ほぼ同じ発達の道筋をたどっていくといわれている。また、幼児期は、運動や情緒の発達、知的な発達や社会性の発達など、多様な側面が関連しながら総合的に発達していくといわれている。田中(2011)は、図式期(5歳~9歳頃)は、「自我の発達という面からみると、自分を客観的に見つめるようになり、友達と比較して、『できる』『できない』が気になり始めるころ」と述べており、この時期に絵に苦手意識を持つ子が出てくるのは、個人的な理由だけでなく、発達的な理由もあると示している。しかし、図式期は、保育教諭や友達との関わりから、絵に表現する楽しさを感じやすい時期でもあると考える。「できる」「できない」ではなく、自分や友達の表現の良さやその表現に込められた思いに共感できるような環境構成や援助を工夫し、絵に表現する楽しさを感じられるようにしたい。

表1 田中義和「子どもの発達と描画活動の指導」をもとに筆者が作成

絵の発達段階	特徴	描く楽しさを引き出すポイント
命名期 (2歳~3歳頃)	「線」から徐々に「円」が発生してくる時期。偶然にできた円にいろいろと「意味づけ」をするようになる時期。	<ul style="list-style-type: none"> ・絵を描きながら、イメージの世界で保育者とおしゃべりすることを楽しむ。 ・この時期はイメージの世界に結び付けて理解することが多くなりがちだが、線や形態のおもしろさそのものを追及していることも忘れないようにする。
前図式期 (3歳~5歳頃)	自分の知っていることや経験したことなどを表現しようとするとする時期。描かれたもの同士に関係性はなく、個々が画面上で独立した存在として描かれている。頭足人と言われる人物表現が描かれる時期。	<ul style="list-style-type: none"> ・思いやイメージを保育者と話しながら描くことを楽しむ。 ・保育者がそばにいて、子どもの絵に共感し、対話を通じてイメージの世界を発展させていくことで、より絵を描くことが楽しくなる。 ・子どもと向かい合って対話しながら描く時に、保育者がイメージのきっかけを作っていく。
図式期 (5歳~9歳頃)	自分の周囲の事象について認識を持ち、それぞれの概念が形成され、人や花、太陽などを記号や図のように描く時期。紙上の画面を1つの空間世界として構成し、空や地面などを意識して表現することができる時期。	<p>(体験画) 生活の表現の楽しさは、生活の中で様々な思いを描く中で、楽しかったことをもう一度体験し、保育者や友達と共に感し合えることである。</p> <p>(想像画) 想像の表現の楽しさは、絵本やお話の世界、想像の世界のイメージを絵に描きながら楽しみ、保育者や友達と発展させ共感することである。</p> <p>(観察画) 観察の表現の楽しさは、描くことを通じて、対象への思いやイメージを深めていくことである。</p>

(2) 絵に表現する楽しさを味わう環境構成

教育・保育要領解説に「幼保連携型認定こども園における教育及び保育は環境を通して行うものであり、そのための環境は、園児が自らの興味や関心に基づいて、自発的、主体的に関わりなくなるものであることが大切である。」と記されている。保育教諭が、園児の興味・関心を受けとめ、環境を整えていくことは、園児が自ら環境に関

わり、面白さや楽しさを感じて、表現しようとするためには重要だと考える。園児が表現したいと思った時に、様々な素材や道具が用意されていることは、表現する意欲を発揮できるようにするだけではなく、素材や道具のおもしろさからイメージが刺激され、新しいイメージがうまれるきっかけにもなると考えられる。そして、自分のイメージに合った形や色を考え、様々な材料や道具を使って、自分なりの表現を工夫していくなかで、楽しさを感じ、充実感や満足感を味わっていくと考える。そのためには、園生活の様々な場面で絵を描くことを取り入れ、絵に表現することを身近で楽しいものだと感じていけるような環境構成を工夫することが重要である。

本研究では、図1に記した「自分なりのイメージで表現する過程」に基づき、絵に表現することを身近に感じられる環境構成の工夫をしていく。その際の視点として、「A 興味関心に沿った環境」「B 没頭できる時間や場の確保」「C 様々な素材や表現に触れられる環境」「D 自信につながる場」「E 友達と共有する場」を表2にまとめた。

表2 自分なりのイメージで表現することを楽しむための環境構成

自分なりのイメージで表現する過程	①環境との関わりを楽しむ	②自分なりのイメージをありのままに表現する	③自分や友達の良さに気付く	④自分なりのイメージを形にする
環境構成	<p>【環境構成 A】 興味・関心に沿った環境</p> <p>【環境構成 C】 様々な素材や表現に触れられる環境</p> <ul style="list-style-type: none"> ・興味・関心を持つて関わりたくない環境。(黒板シート・絵描き歌) ・手に取りやすい素材や道具の配置。(固体絵具等) ・イメージしやすい環境。(○○屋さんなどの掲示) ・生活中で、絵に表現する場がある。(絵日記当番) 	<p>【環境構成 B】 没頭できる時間や場の確保</p> <p>【環境構成 D】 自信に繋がる場</p> <p>【環境構成 E】 友達と共にする場</p> <ul style="list-style-type: none"> ・イメージに合った材料や道具の準備。 ・周りや友達から刺激を受けられる環境。(共同画) ・アイディアを形にするための材料や道具の準備。 ・様々な表現が取り入れやすい環境。 	<p>・友達の作品に触れられる環境 (わかば美術館)</p>	<p>・思いや考えを友達と共有できる場の確保 (振り返りの場)</p>

(3) 絵に表現する楽しさを味わう援助

教育・保育要領解説には、保育教諭の主な役割として「園児が行っている活動の理解者としての役割」「園児との共同作業者」「憧れを形成するモデルとしての役割」が示されている。保育教諭は、園児の素朴な表現を受けとめ、表現しようとする意欲を引き出し、表現することに前向きな態度を育むことが重要であると考える。そして、イメージを引き出す工夫をしたり、イメージを形にするために一緒に考え、支援したりすることや表現の素晴らしさを具体的に伝えていったりすることで、絵に表現する楽しさを味わい、表現する意欲が育まれると考える。また、保育教諭が仲立ちとなり、園児一人一人の表現の素晴らしいところや表現に込められた思いを伝えていくことで、友達とイメージを共有し、それを表現しようとしていく。友達と一緒に表現したり、つくったものを使って遊んだりすることを通して、より楽しさが感じられるようになると考える。これらのこと踏まえると、園児が、自分なりのイメージを絵に表現しようとする時には、保育教諭の「園児が行っている活動の理解者としての役割」が、最も重要なと考える。園児一人一人と向き合い、何を表現しようとしているか理解し、必要に応じた言葉かけや関わりを行うことが大切になってくる。

クラスの実態として、絵に表現することが苦手だと感じている子、絵に表現することに興味はあるが何を描いていいか分からない子、絵に表現することに自信がなく、なかなか描き始められない子、自分なりに工夫しながらイメージを形にしようとしている子の姿が見られる。そこで、「①きっかけ作り」「②イメージを引き出す」「③認める」「④膨らませる」の4つの視点から援助を行っていき、工夫を図っていきたい。絵に表現する楽しさを味わうための援助について表3にまとめた。

表3 保育教諭の援助の工夫

予想される園児の姿	保育教諭の援助
<p>④自分なりのイメージを形にする 【グループ④】 自分なりに工夫しながら、イメージを形にしようとしている子。 ・絵を描くのは楽しい ・色や形を工夫する ・もっと描きたい</p>	<p>【援助④膨らませる】 ◎これまでの絵に表現する活動を思い出し、自分の表現に取り入れられるようにする。 「これまでの絵に表現する活動を思い出し、自分の表現に取り入れられるようにする。」「前に～をやったね。」</p>
<p>③自分や友達の表現の良さに気付く 【グループ③】 イメージはあるが、絵に表現することに自信がない子。 ・どうやって描いていいか分からない。 ・上手に描けないから描きたくない</p>	<p>【援助③認める】 ◎表現に込められた思いに共感する。 「○○さんはこう思つたんだね。」「～して嬉しいんだね。」</p>
<p>②自分なりのイメージありのままに表現する 【グループ②】 絵に表現する遊びや活動に興味を示している子。 ・何を描いていいか分からない。 ・難しそう ・おもしろくない</p>	<p>【援助②イメージを引き出す】 ◎園児との会話から心動かされた出来事を聞き出す。 「～して嬉しいんだね。」「～して嬉しいんだね。」</p>
<p>①環境との関わりを楽しむ 【グループ①】 絵に表現する遊びや活動に苦手意識がある子 ・他の遊びに夢中 ・塗り絵は好き ・絵を描くのは難しい</p>	<p>【援助①きっかけ作り】 ◎描画遊びを取り入れ、一緒に遊ぶことで絵に表現できるようとする。 「おもしろいね！」</p>
<p>【子どもへの言葉かけの視点】 ◎絵を見る視点を持つことで、良い点をたくさん見つけられるようにする。 ◎園児の言う「上手な絵」がどんな絵か具体的に伝え合うことで、自分の表現の素晴らしさに気付けるようにし、自信に繋げていくようにする。</p> <p>①焦点がはっきりしているか(捉え方) ②色彩がきれいか(アクセント) ③構図がおもしろいか(バランス) ④動きがあるか(心の躍動感) ⑤感動が伝わってくるか(個性) ⑥線がゆっくり引けているか(子どもの線) ⑦素朴さ(子どもらしさ) ⑧自由さ(大胆さ) ⑨明るさ(のびのびと) ⑩かわいらしさ(心の現れ) ⑪ユーモラス(イマジネーション)</p>	

V 保育実践

1 保育計画

(1) 実態把握

本研究の対象クラスは、年長5歳児20名のクラスである。実態把握として、10月に、園児に「絵を描くこと」について聞き取りを行い、担任間で絵に表現する様子を見取り、グループに分けた(図2)。絵を描くことが好きで、絵に表現することに積極的な子が5名いたが、絵を描くことが苦手だと感じている子が7名、絵を描くことが好きと答えていた子でも、絵に表現することに消極的な子が8名いた。また、クラスの半数以上が絵を描く時に「何を描いていいか分からない」「上手に描けない」と答えていたが、絵の具を使うことは好きと話していた。自分なりのイメージを伝え、表現するために工夫したり、友達と一緒に絵に表現したりすることを楽しんだりする園児が少ないことが分かった。

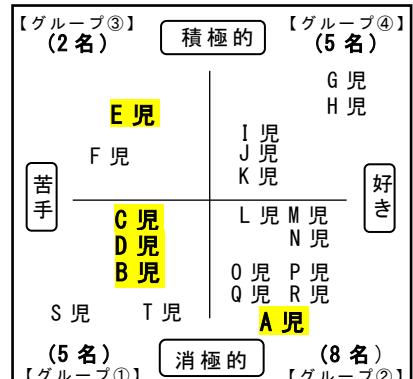


図2 園児の実態について

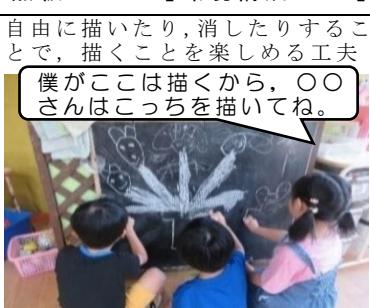
(2) 保育計画

実践		△ねらい・内容
11月 (第3週)	○絵日記当番 ○描画遊び ・絵描きじやんけん ・絵描き歌等 ○黒板シート	△絵を用いた遊びや活動を保育教諭と一緒に楽しむ。 ・絵日記当番や描画遊びを通して、絵に表現することに興味、関心を持つ。 △色や形で自分の気持ちを表現する。 ・自分の感じたことや考えたことを形にしていく。
11月 (第4~5週)	○遊び絵 ・デカルコマニー ・スクラッチ ・コラージュ等 ○～屋さん ○ままごと	△遊び絵を通して、イメージすることを楽しむ。 ・自分なりのイメージで遊ぶ。 △色々な素材に触れ、自分のイメージを表現する。 ・絵に表現したもの遊びの中に取り入れる。
12月 (第1~2週) 本時 12月6日 12月7日 (本時翌日)	○発表会への取り組み ・劇作り (へんしん首里城トンネル) ・道具作り (旗頭、トンネル) ・壁面作り (守礼門、神様の木 首里城から見える街)	△友達や保育教諭と一緒にイメージを膨らませ、絵に表現することを楽しむ。 ・発表会の練習を進めていく中で、劇遊びに使う絵や道具作りを、自分なりのイメージを出しながら表現し、保育教諭や友達と一緒に進めていく。 △お互いの表現を認め合いながら、表現する楽しさを味わう。 ・イメージを共有したり、アイディアを出し合ったりしながら、劇に使う道具や壁面を作っていく。

2 実践事例

(1) 室内環境の再構成による園児の変容

絵に表現することを難しいと感じている園児の思いを受け、クラスの環境の見直しを行った。園児の興味・関心を把握し、自ら関わりたくなる環境構成の工夫を行うことで、「やってみたい」という気持ちを引き出し、絵に表現することが身近に感じるようとした。様々な大きさの紙を準備したり、すぐに使える固形絵の具を用意したりすることで、遊びの中や活動に取り入れやすいようにし、絵に表現することを身近で楽しいと感じられるよう工夫を行った。自分の好きなキャラクターを描いて色をぬったり、友達と一緒に黒板シートに絵を描いたりするなど変容が見られた。また、自分の今日の気持ちを色で表現し、発表する絵日記当番も取り入れた。自分なりのイメージを保育教諭や友達に共感してもらうことで、表現する楽しさを感じ、絵日記当番を楽しみにしている姿が見られるようになった。

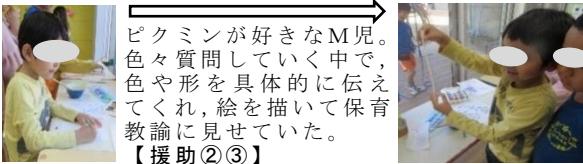
☆手に取りやすい、素材や道具の配置【環境構成A】	☆遊びに取り入れやすい黒板シート【環境構成A・B】	☆わかば美術館【環境構成C・D・E】	
遊びや活動の中に絵に表現することを取り入れやすくするための工夫  取り出しやすくて片付けしやすい	自由に描いたり、消したりすることで、描くことを楽しめる工夫 	様々な表現に触れ、思いを共有する工夫。良さを認められる場。 	
☆絵日記当番【環境構成A・C・D・E】			
クラスの実態として、絵に表現するときに「何を描いていいか分からない」という園児が多かった。そこで好きだと答えていた絵具を使い、自分の思いを色で表現し、発表する「絵日記当番」を取り入れることにした。午後の集まりの時間に「絵日記当番」について話してみると、「やってみたい!」と興味を示していた。  スケッチブックを2冊準備し、掃除の時間を利用して、色を塗る。当番は、2名ずつにし、発表の順番は、カレンダーに書き込んでおく。	んで楽だもし ね色い! が気 違持 うち	つか こ う し 友 た や ク い 達 は っ て 氣 と 水 て 持 遊 色 樂 や ち ん .しつはで かとビ 樂	いか見て保 てばれ貼育表 お美るり教し く術よ'諭た 。館う誰が内 にで書容 置わもいを

(2) 生活発表会の取り組みを通して行う環境構成と援助の工夫

生活発表会で首里城をモチーフにした劇を発表することになり、劇で使う道具や絵を準備することになった。園児が自分なりのイメージを表現できるよう環境構成を工夫し、絵に表現する楽しさが味わえるように援助を行った。

事例 1

絵に表現する楽しさを味わう環境構成と援助の工夫～A児の姿を通して～

これまでのA児の育ち	<p>「絵に表現する遊びや活動に興味を示している」姿のA児。描画遊びをきっかけに友達とピクミン団地を作り、自分なりのイメージを絵に描き、伝える姿が見られていた。</p>  <p>ピクミンが好きなM児。色々質問していく中で、色や形を具体的に伝えってくれ、絵を描いて保育教諭に見せていた。 【援助②③】</p>	
	<p>保育教諭：「見て見て」と周りの友達に知らせる。 M児：「ピクミンの敵なんだ。屋根からおりてくるんだよ。」 友達に自分なりのイメージを伝え、一緒にピクミン団地を作っていた。 【援助④】</p> 	
本時の姿	<p>石垣のトンネル作りで、石がより本物に見えるように工夫して描く姿が見られた。</p>	
	○園児の姿	☆環境構成 ☆援助
	<p>○前日まで休んでいたため、困った様子で、活動に入れないと。 ○首里城の石垣をイメージしたトンネル作りに興味を持つ。 「おもしろそう」</p> <p>②自分なりのイメージをありのままに表現する</p> <p>○石の形を描き、色を塗ることを楽しんでいる。 ○自分の描いた石を保育教諭に見せる。保育教諭の言葉かけに嬉しそうな顔をする。 「(石が)パン、パン、パン(積み重なっている)」</p> <p>○保育教諭に自分のイメージを伝える。 「黒とか使う。本当の石っぽくしたい」「でこぼこしてて、同じ色じゃない」</p> <p>④自分なりのイメージを形にする</p> <p>○スペッタリングで石の表面を表現しようとする。上手くいかず、黒い点を描き加えていく。</p> <p>○保育教諭に自分なりに工夫したこと話をす。 「黒を描くと現実みたいになったよ」「灰色と薄い灰色が本物っぽい」</p> <p>○友達の表現にも触れながら、一緒にトンネルを描いていく。</p> <p>○振り返りの時間に、友達に自分なりのイメージを伝えている。 「黒い点々を塗って、現実っぽくしたんだ。」「本物みたいになって楽しかった。」</p>	<p>○友達の様子を知らせる。 「友達が何をしているか見てこよう」</p> <p>○首里城を散策した時のことを思い出せるように話をする。 「首里城で見た石垣みたいなトンネル作りたいって言ってたよ。☆トンネルを描く道具を選ぶ。【環境構成 C】</p> <p>○楽しんでいる気持ちに共感しながら、具体的に褒める。 「本当に石が積み重なっているみたいだね。本物の石みたい。」</p> <p>☆黒の絵の具の場所を教えて、自分で準備できるようにする。【環境構成 C】</p> <p>○どんな石を描きたいか質問する。 「石はどんな色をしてるの?」「汚れや苔もあったんだね」「形は?」「表面がでこぼこしているんだね」</p> <p>○A児なりのイメージに共感し、工夫したところを具体的に褒める。 「本物みたいにするために黒を塗ったんだね」「でこぼこした感じが伝わってくるよ」</p> <p>○友達の思いや様子を伝える。 「～さんは、赤に塗ってるね」「宝物みたいな石なんだって」</p> <p>☆A児が工夫したところを紹介し、自信へと繋げていく。【環境構成 D・E】 「本物の石みたいにするために黒を塗ったんだって」「良い考えだね！」</p>

【A児の変容と考察】

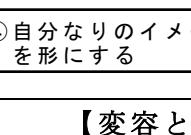
これまでA児は、絵に表現する遊びや活動に興味を示しているが、友達の遊びを見ているだけで、なかなか取り組めないでいた。しかし、生活発表会のトンネル作りでは、「本物みたいな石にしたい」とA児なりに工夫する姿が見られた。首里城散策で見て触った石垣について保育教諭と話したことで、イメージがより鮮明になり、自分なりのイメージを表現しようとしたと捉える。振り返りの時間に「本物みたいになって楽しかった」という言葉から、A児が、自分なりのイメージや思いを保育教諭や友達に伝えたことで、認められ、より絵に表現する楽しさを感じ、自信につながっていく

きっかけのひとつになったのではないかと考える。

事例 2 友達と一緒に表現する楽しさを味わう環境構成と援助の工夫 ～友達とイメージを共有する場を通して～

本時の姿	友達と一緒に表現する楽しさを味わう環境構成と援助の工夫
<p>○園児の姿</p> <p>○道具（タンポ）を選び、白い絵の具で雲を描いていく。 B児「丸の雲！」 C児「ハートの雲にしよう。」</p> <p>○綿をつけて、ふわふわの雲にして、色を塗る。 C児「両面テープは？」 「雲にポンポンって（塗るんだよ）」</p>  <p>K児：「黒に塗ろう」 C児：「黒はダメ」「黒以外ね」 B児：「ピンク持ってきたよ」</p> <p>○雲に塗る色を作ろうと絵具を混ぜ合わせる。色を混ぜることに夢中になり、この日の活動はそのまま終わった。</p>	<p>☆環境構成 ◎援助</p> <p>☆手に取りやすいように素材や道具を配置する。 【環境構成 C】</p> <p>☆工夫している姿を見守りながら、使えそうな道具を提案する。 【環境構成 C】 「ボンドもあるよ。使ってみる？」</p> <p>◎園児のイメージを引き出す質問をする。 【援助②】 「どんな雲にしたいの？」 「好きな色の雲にするの？ 好きな色って何色？」</p> <p>☆園児の様子を見守る。 【環境構成 B】</p>

検証保育翌日

<p>○どんな絵にしたいかもう一度話し合う。 みんな「明るい空にしたかった。」 B児「（絵具）混ぜすぎて黒くなったり」 B児・D児「黄色い雲（が明るい空）」 C児「薄い色。ピンクとか黄緑」 (なかなか考えがまとまらない様子をみて・・・) B児「小さい紙に、一回、みんなが思ってること描いたら？」</p> <p>②自分なりのイメージをありのままに表現する</p>  <p>(そこに近くで見ていた E児が来て...) E児「昔はわらの家だったんだよ」 C児「わらの家ってどんな家？」 B児「じゃあ、描いてみて」 (E児が小さい紙に描き始める。) D児「いいね。」</p> <p>(どうやって描くか)見せて!</p> <p>③自分や友達の良さに気付く</p>  <p>○E児が描いた絵を見て、屋根にわらを描きたす。</p> <p>○自分なりのイメージを描き終るとみんなで見せ合う。 C児「絵日記当番みたいに発表しよう」 みんな「いいよ」</p> <p>○空の色や雲の形などを話し合う。 みんな「朝の空にしたい」 C児「みんなで首里城に行った時の時間（の空）」 D児「雲はハートにしたい」 B児「太陽の光はいろんな色」</p> <p>④自分なりのイメージを形にする</p>  <p>○みんなのアイディアを取り入れながら街の絵のイメージ図を作る。</p>	<p>☆園児に声をかけ、壁面について相談する場を設ける。 【環境構成 E】</p> <p>◎描きたい絵のイメージを引き出せるように質問する。 【援助②】 「どんな空にしたかったの？ 暗い空？」 「明るい空ってどんな色？」</p> <p>◎園児の何気ない言葉も聞き逃さず、表現に繋げていくよう、周囲にも伝えていく。 【援助①】 「Bさんが何か話しているよ。」</p> <p>◎友達のアイディアを聞き、自分の表現に取り入れたりするなど、刺激になるようにする。 【援助④】 「Eさんが、面白いこと言ってるよ」 「昔の家は、今の家とは違うみたいだよ」</p> <p>☆描きたいと思ったときに、自分の描きやすい大きさの紙や描く道具を選べる環境を整える。 【環境構成 C】</p> <p>◎話し合いの様子を見守りながら、時には伝わりやすいように言葉を補ってく。 【援助③】 「みんなで描いた絵を見せながら、相談するってこと？」</p> <p>◎友達と一緒に表現する楽しさが味わえるように言葉にする。 【援助③④】 「みんなで散策したときの空が描きたいんだね」 「一緒に考えると素敵なかいだね。」</p> <p>☆園児の描いた絵を1枚の紙にまとめ、掲示する。 【環境構成 E】</p>
---	---

【変容と考察】

保育教諭が、友達と一緒に表現する場を設け、表3の援助の視点を持ち、言葉かけを工夫したことで、自分なりのイメージを伝え、相談する姿が見られた。また、絵に表現することを身近に感じられる環境構成を行ってきたことで、言葉だけでは伝わりにくい、自分なりのイメージを絵に描いて見せるなど変容も見られた。自分なりのイメージを積極的に伝えたり、友達のアイディアを取り入れ、工夫したりしながら表現する姿から、イメージを引き出す援助の工夫やイメージを共有する場を設けることは、友達と一緒に表現する楽しさに繋がったと考える。

事例 3 表現する意欲に繋がる環境構成と援助の工夫～E児の変容を通して～

本時の姿	友達と相談する中で、自分なりのイメージを伝え、守礼門の絵を描いている。	☆環境構成 ◎援助
○園児の姿	○絵に表現することに自信がないE児。首里城散策をきっかけにH児と守礼門を描く。	◎首里城散策をする中で、気づきや感動に共感し、園児同士で共有できるようにする。【援助①】
②自分なりのイメージをありのままに表現する	○首里城散策を思い出し、守礼門の写真を持ってきて自分なりのイメージを伝えていく。	☆◎イメージのヒントになるように、首里城に関する本や写真を掲示する。【環境構成 A 援助②】 「ロッカーの上に写真や本もあるよ。」
④自分なりのイメージを形にする	E児「(瓦の下に)丸いものがあるよ」 H児「じゃあ、描こう」 E児「鉛筆持ってくる」 E児「(描くの)大変だ」	
③自分や友達の良さに気付く	○守礼門に描かれていた花を首里城で見たハイビスカスとしてイメージしたE児。守礼門の絵にハイビスカスを描いていく。 E児：「ハイビスカス描いたよ。首里城行った時に見たんだよ。」	◎楽しかった体験に共感し、表現の良さを具体的に褒める。【援助③】 「これは何の花？」 「よく覚えていたね。ハイビスカス、素敵なアイディアだね。」
④自分なりのイメージを形にする	○友達の表現に刺激を受け、自分なりのイメージを表現していく。 H児「昔の人も描こう！」 H児「昔の人は着物だよ」 E児「Eも描く」 E児「昔は女人の家来もいたよ。」	◎友達の面白いアイディアを聞いたり、見たりすることで、思いを認めたり、自分の表現に取り入れたりするなど、刺激になるようにする。【援助③④】 「この人は今の人？昔の人？」 「昔の人だから服も髪の違うんだね。」
③自分や友達の良さに気付く	○保育教諭がハイビスカスのアイディアを友達に紹介すると、嬉しそうに笑っていた。 E児「これはハイビスカス」「首里城で見たよ。」	☆自分のイメージを形にできる時間を確保する。【環境構成 B】 ☆表現に込められた思いやアイディアを認め、自信へと繋げていく場を設ける。【環境構成 D・E】 ◎園児の表現の良さや工夫したところを具体的に褒めることで、次の意欲へと繋げていく。【援助③④】 「これは何の花だと思う？」 「首里城散策の時に見たハイビスカスを描いたんだって。」「素敵なかいだなって思ったよ。」

生活発表会後

○園児の姿	☆環境構成 ◎援助
○発表会での、楽しかったことや頑張ったことなどをクラスで話し合う。 E児「劇も運動遊びも楽しかった。」「全部頑張ったよ。」	◎発表会での、楽しかったことや頑張ったことを具体的に聞くことで、イメージを引き出す。【援助②】 「劇はどんなところが楽しかったの？」 「竹馬も最後まで乗っていたね。」
○画用紙を取ったがなかなか描き始められない。 E児「(描きたい場面を)選べない」	◎E児の話に耳を傾け、思いに共感する。【援助③】 「全部楽しかったんだね。全部描いてみたら？」 「描いてから繋ぎ合わせるんだね。いいね！」
○楽しかったことや頑張ったことを表現するために、場面を分けて絵を描いていく。	☆自分なりのイメージを形にできるよう、時間と場所を十分確保する。【環境構成 B】 「(外に出る)時間は気にしなくて大丈夫だよ。」「描きたいところまで描いてね。」
○描いた4枚の絵を繋ぎ合わせる。	

【E児の変容と考察】

10月の聞き取りでは、「上手に描けないから、絵を描くことはあまり好きではない」と答えていたE児だったが、12月の聞き取りでは、「描きたいことが決まると描いて楽しい」と答えていた。保育教諭が、園児の思いに寄り添い、心動かされる体験から自分なりのイメージを引き出したことで、自分なりのイメージで絵に表現する姿が見られた。また、没頭できる時間と場所の確保や友達から刺激を受けたことで、自分なりに工夫しながら表現し、その表現の良さを認められたことで、自信に繋がり、楽しさを感じやすくなったりしている様子から、表現する意欲が高まり、充実感を味わっていると

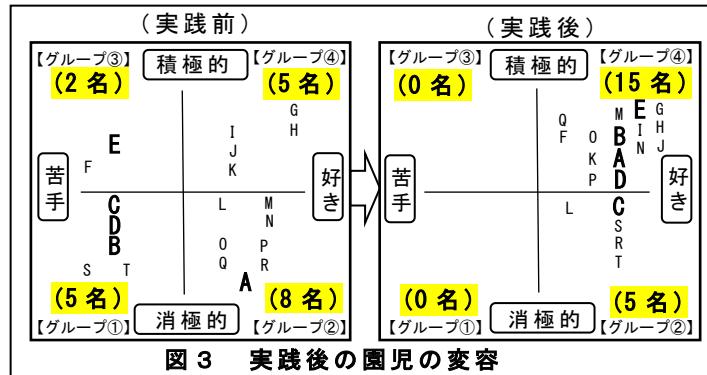
捉える。

3 実践を通しての園児の変容

実践後の聞き取りで、絵を描くことが好きと 20 名全員が答えており、その理由に楽しさをあげた。さらに、実践前と実践後で「絵を描くことが好きな理由」を比較してみたところ、「上手」という言葉ではなく、「友達と一緒に」「楽しい」などの言葉が多く挙がっていた（表 4）。これは、自分なりのイメージで表現する経験を積み重ねる中で、自分の表現の良さを認められ、自信や意欲に繋がり、表現する楽しさを感じられたからだと捉える。また、絵に表現することに消極的だった園児にも変容が見られた（図 3）。発表会後に描いた行事の絵では、友達と一緒に 1 つの絵を描いたり、紙を繋ぎ合わせ、好きな大きさにして描いたりするなど工夫しながら取り組む姿が見られた。自分なりのイメージで表現する過程で、一人一人に応じた援助や絵に表現することを身近に感じられる環境構成を工夫することで、表現する意欲に繋がり、楽しさを感じていったと考える。

表 4 絵を描くことが好きな理由

(実践前)	
・絵が上手に描けるから好き。	・色を塗るのが楽しい。
等	
(実践後)	
・友達と一緒に描いて楽しい。	・描いていると楽しい気持ちになる。
・発表会の絵描いて楽しかったから。	・思ったことが描けて楽しい。等



VI 成果と課題

1 成果

(1) 絵に表現することを身近に感じられる環境構成を行うことで、園児が自分なりのイメージを絵に表現する経験を積み重ね、イメージを形にしたり、友達と一緒に表現したりしながら、絵に表現することの楽しさを味わう姿へと繋がった。

(2) 保育教諭が表現に込められた思いを読み取り、その思いに共感し、イメージを引き出す言葉かけや表現の良さを具体的に褒めるなどの援助を工夫したことで、表現意欲が高まり、自分なりのイメージで表現することを楽しむ姿へと繋がっていった。

2 課題

(1) 絵に表現する活動以外でも、自分なりのイメージで表現する楽しさが味わえる環境構成と援助の工夫を研究していく必要がある。

(2) 発達段階に応じて、表現することを楽しむための環境構成や援助の工夫を行うことが必要である。

《主な参考文献》

『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』

内閣府・文部科学省・厚生労働省 フレーベル館 2018

『子どもの発達と描画活動の指導』

田中義和 ひとなる書房 2011

『造形表現』

谷田貝公昭監修 おかもとみわこ・石田敏和編者 2018